

大工棟梁が創った擬洋風建築

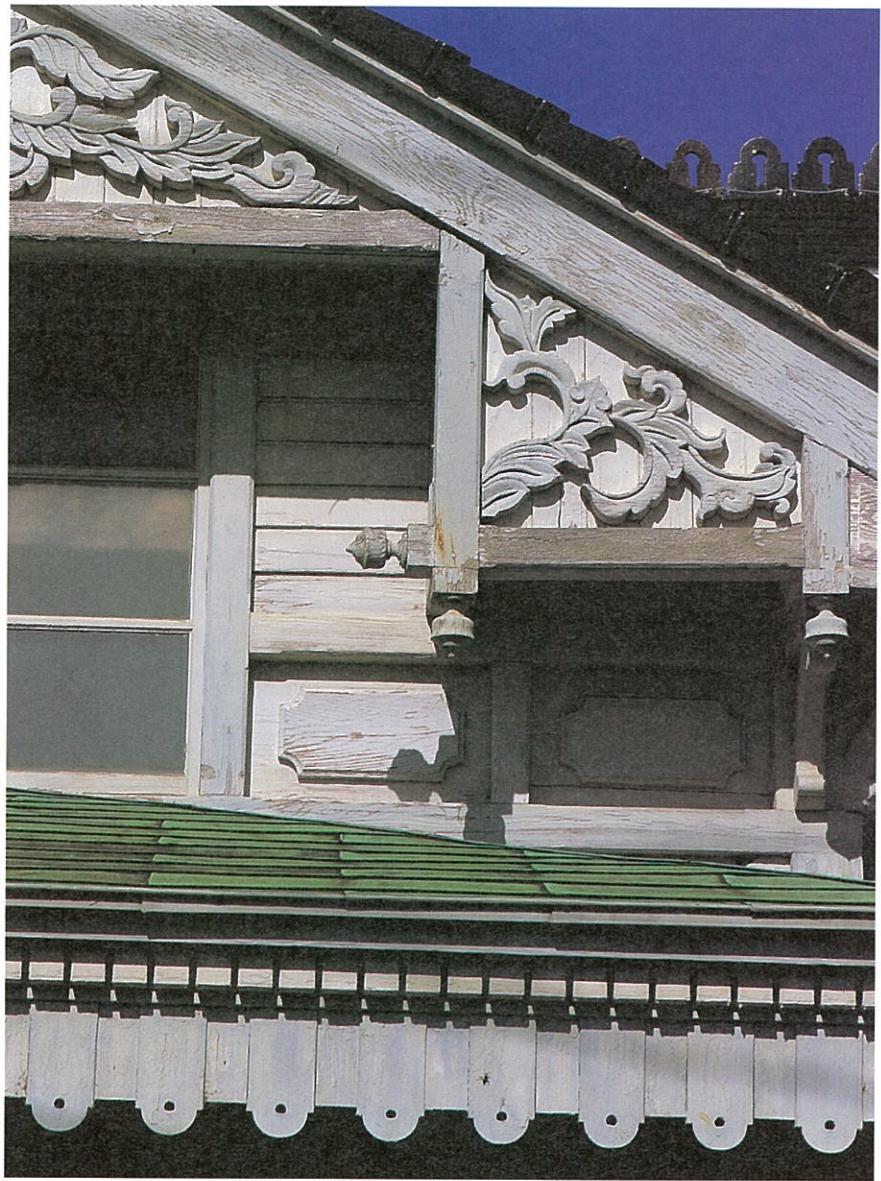
〔澤田家〕

澤田家住宅は、井波町の武部家にあった洋風別館を移築したものである。武部家は十村役を務めた豪農で、明治期に県議会議員や村長などを務め、政治家として活躍した家柄である。

建物は大正初期、賓客をもてなす別館として建てられたもので、井波大工の長谷川吉太郎・作太郎の親子が計画から7年の歳月をかけて建築したものである。

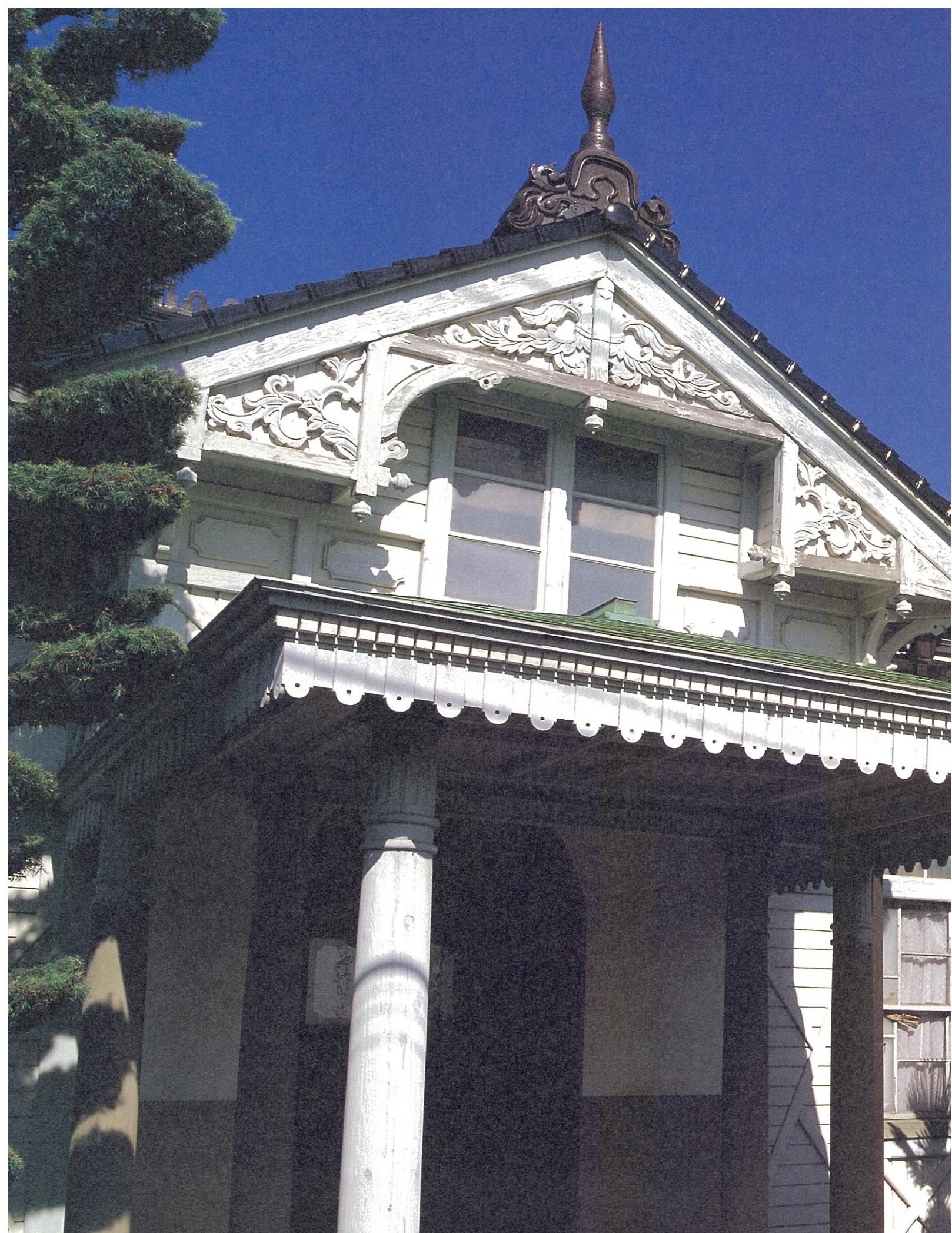
平面は、玄関ホールの左側に洋間、正面奥に茶室、右側に9畳の鞘の間を配し、手前奥には床の間付き15畳の座敷があり、背面側と座敷右側には縁側が付く。外観は、鎧下見板張りで、窓下や窓脇には化粧筋違を入れ、軒には装飾的なアーチ形の持送り（ブラケット）を付けている。屋根の棟には装飾的な雪割り瓦をのせ、鬼瓦も尖塔形の洋風意匠でまとめている。また、寄棟屋根と円形ドーム型の屋根の組み合わせが印象的で、西洋建築の意匠を伝統の技で造り上げた擬洋風の代表作である。

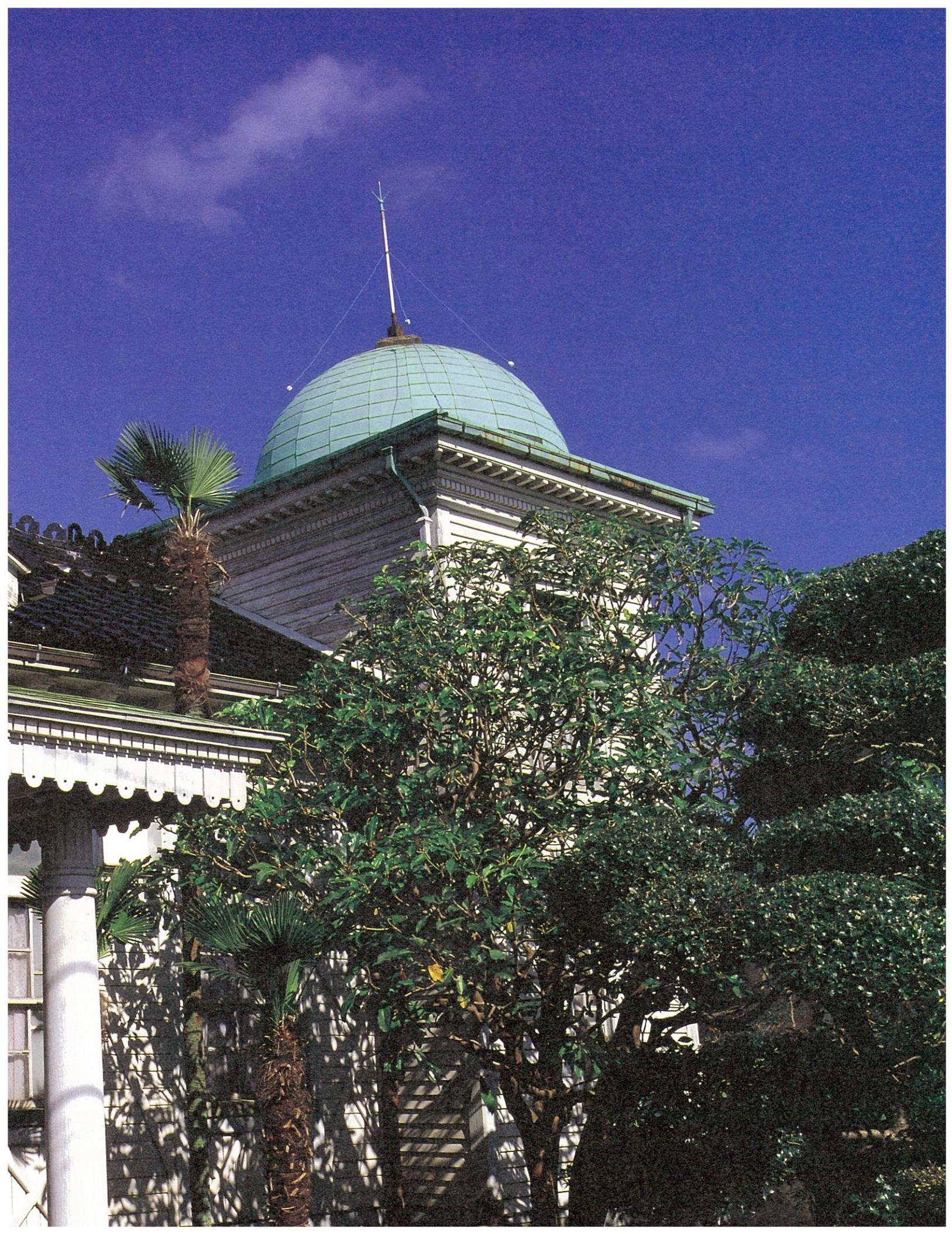
室内は、外の洋風に対して和風で、時代の息吹を感じさせる。座敷は格間に隅飾り板を入れ、銀箔貼りの折り上げ格天井になっている。鞘の間は、吹き寄せの格天井、床の間は小格子の天井で、格間は柾板を市松模様に配している。窓の外は洋風だが、内は窓枠隅飾り板を付け、上部には彫刻欄間を入れるなど、自由奔放で奇想天外の意匠である。



ドーム屋根の展望塔は、隅柱を化粧に、壁を鎧下見板張りとし、窓は上部に飾り破風（ペティメント）を付けた上げ下げ窓で、腰は稻妻形、軒には連続した歯飾り（デンティル）を付けた意匠である。









玄関部のドリス式の柱は、膨らみを持ちながら上に向かって細まり、頂部に溝彫りを施している。玄関ポーチの軒先には軒板飾り(バージボード)に歯飾りを付けた意匠が印象的である。



外観は洋風だが、室内は和風意匠が用いられているので、欄間彫刻を隠すため、窓上部はすりガラスを入れている。外壁の唐草模様とともに、軒まわりや窓まわりの歯飾りが外観に印象づけている。